

助産師教育ファーストステージ研修 履修要覧

平成27年度

公益社団法人 全国助産師教育協議会

授業科目名：助産論 1単位（30時間）

科目目標	女性や家族、社会の中での助産の意味をふまえ、助産及び助産ケアの基盤となる概念や理論を学び、自己の助産観を探究する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1 助産の概念を理解し自己の助産観について考究できる。2 助産の歴史的経緯の概要を説明できる。3 助産師活動の対象と業務、関係法規について列挙できる。4 助産学を支える理論が列挙でき、要点を説明できる。5 助産ケアの理念について説明できる。6 女性の人権と健康について要点を説明できる。7 生命倫理について自己の考えを述べられる。8 国内外の母子保健の現状と課題について要点を説明できる。9 助産師教育の変遷について概要を説明できる。10 助産業務に関連する医療安全の概念について説明できる。11 助産管理の概念について説明できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none">1 助産の概念2 助産の歴史と出産の文化3 助産師の職制と業務、チーム医療の中での助産師の役割4 助産ケアに関係する理論5 助産学研究の動向6 助産ケアの理念と助産師倫理綱領7 女性の人権と健康8 助産と生命倫理9 時代の動向からみた周産期の諸問題10 助産師と国際母子保健と助産師教育11 助産にかかわる政策決定12 助産管理の概念13 助産師と医療安全14 学校経営と管理15 まとめ
開講時期	平成27年5月22日(金)～5月24日(日)
授業形態	講義
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産論演習 1単位（30時間）

科目目標	<ol style="list-style-type: none">1 助産領域の対象及び活動の場の特性を学び、助産の現状と課題、展望を明らかにする。2 自己の助産観を明確にする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1 助産分野における倫理的課題について分析し、論理的に説明できる。2 諸外国の助産師の定義、業務、教育について分析し、論理的に説明できる。3 周産期の医療事故の具体的事例について分析し、対応策および予防策について説明できる。4 自己の助産観について論理的に述べられる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none">1 助産分野における倫理的課題の考究2 助産師活動・教育の国際比較3 周産期におけるリスクマネジメント4 自己の助産観の考究
開講時期	平成27年7月10日(金)～12日(日)
授業形態	講義・演習
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育方法論 2単位（60時間）	
科目目標	助産師教育の方法が理解でき、単元の目標に沿った教育が展開できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育における教授・学習活動について説明できる。 2 助産師教育における教材と教材研究について説明できる。 3 助産師教育における技術教育及び学生の問題解決能力、統合する能力を育成するための教育方法を説明できる。 4 助産師教育における教授学習計画作成の考え方が説明できる。 5 授業評価の考え方が説明できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育における教授・学習活動の成立 2 助産師教育における教材と教材研究 教材研究の過程、教材の選定 臨地実習における学習者の経験の教材化 3 助産師教育における技術教育及び問題解決能力、「統合」する能力を育成する方法 技術力を促す教育方法 思考力を促す教育方法 知識と技術を統合する教育方法 4 教育技術の種類と特徴 5 助産師教育における教授学習計画作成の考え方 講義、演習、臨地実習指導案作成の実際 6 授業評価の考え方
開講時期	平成27年8月3日（月）～8月8日（土） 平成26年10月9日（金）～10月10日（土）
授業形態	講義・演習
評価	授業に対する参加度・質問・意見の内容等を総合的に評価する。

授業科目名：助産師教育方法演習 1単位（30時間）	
科目目標	教授学習計画、指導案を作成し、模擬授業を行い、助産師教育方法を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導案に沿った模擬授業（講義・演習）を展開できる。 2 模擬授業実施後のリフレクションにより自己の課題を明確にできる。 3 より効果的な助産師教育の方法を思考することができる 4 講義・演習と臨地実習との関連性が理解できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習指導計画の作成の実際 2 講義の授業計画案の作成 3 演習の授業計画案の作成 4 臨地実習の授業計画案及び指導案の作成 5 模擬授業（講義・演習）の実施 6 授業のリフレクションによる自己の課題の明確化 7 事例検討 学習が困難な学生への学内での対応 8 事例検討 臨地での学習が困難な学生への対応と実習指導者との調整 9 講義・演習と臨地実習との関連性
開講時期	平成27年8月3日（月）～8月8日（土） 平成27年10月9日（金）～10月11日（日）
授業形態	講義・演習
評価	授業に対する参加度・質問・意見の内容等を総合的に評価する。

授業科目名:助産師教育課程概論Ⅰ 1単位(30時間)

科目目標	助産師教育課程を編成する基盤として、カリキュラムの基本的考え方や看護教育課程の編成について理解を深める。
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 カリキュラムの意義について説明できる。 2 国家資格に関するカリキュラムと法律との関係について理解でき、実際の教育活動に生かすことができる。 3 カリキュラムの基礎理論を実際の教育活動との関連で理解できる。 4 カリキュラム編成の基本的な考え方について、実際の教育活動との関連で理解できる。 5 助産師教育に含むべき内容について、考えることができる。 6 助産師教育の方法について、効果的なカリキュラム運営の視点で理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の意義：教育課程とは何か、学校教育と教育課程 2 教育課程と法律：保健師助産師看護師学校養成所指定規則と学校カリキュラム 3 カリキュラムの基礎理論：経験カリキュラムと基礎理論、統合的なカリキュラム(コア・カリキュラム等)、隠されたカリキュラム 4 教育課程(カリキュラム)編成の基本原則と原則 5 教育課程の運営と評価：教育課程の運営における現状の問題点 6 助産に対する社会のニーズとカリキュラム編成 7 他職種等のチームワークに生かす助産師教育課程(看護師・薬剤師・医師等の教育) 8 日本における助産師教育の多様な展開とその特徴と課題(演習を含む) 9 助産師教育カリキュラムの基本的考え方(実践者としての能力形成：演習等) 10 基本的考え方に基づく助産師教育の実際(演習) 11 まとめ(全体の整理と補完、ディスカッション)
開講時期	平成28年1月6日(水)～11日(月)
授業形態	講義及びグループワーク・討論
評価	授業に対する参加度及び、質問や意見の内容等を総合的に評価する。

授業科目名：助産師教育課程概論Ⅱ 1単位（30時間）

科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育課程に関連する法制度や行政との関連を理解し、助産師教育編成上の必要な知識や考え方を深める。 2 全国助産師教育協議会やその他の職能団体の役割と助産師教育の関連を理解する。 3 助産師教育の基盤となる概念や知識を理解し、日本の助産師教育を推進できる力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育課程に関連する法制度や国家試験受験資格に関する指定規則と教育編成上の基本を理解できる。 2 助産師教育に関連する専門職団体との教育の連携について、その内容や役割を理解できる。 3 助産師教育の基盤となる看護教育の概要を把握し、カリキュラムの基本的な考え方について説明できる。 4 日本の助産師が修得すべき能力と助産師教育の内容について概要を把握し自己の教育理念にもとづく助産師教育をイメージできる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育を支える法制度と省庁の役割 2 助産師国家試験の変遷と動向 3 行政が助産師に期待する役割と機能 4 看護基礎教育における母性看護学教育の実際 5 全国助産師教育協議会の役割と経過 6 助産師の各職能団体における教育に関する役割と連携（日本助産師会・日本看護協会） 7 助産師のコアコンペテンシーと教育への反映 8 助産師教育のミニマムリクワイアメンツ 9 助産師教育機関におけるカリキュラム運営の実際 10 日本の助産師教育課程の現状と将来展望 11 まとめ（科目全体の整理と補完、ディスカッション）
開講時期	平成28年1月6日(水)～11日(月)
授業形態	講義及び、グループワーク・全体討議
評価	授業に対する参加度・質問・意見の内容等を総合的に評価する。

授業科目名:助産師教育課程演習 1単位(30時間)

科目目標	基本的なカリキュラム構築の考え方を生かし、助産師教育のカリキュラム案を編成できる能力を養う。
到達目標	1 カリキュラム構築の基本的な考え方について説明できる。 2 カリキュラム作成のプロセスを理解し、検討過程をイメージ化できる。 3 既存カリキュラムを通して、カリキュラム構築の過程と内容を理解できる。 4 実際に仮定の教育機関を設定し、カリキュラム案を作成し、実施の想定からカリキュラム評価のイメージ化ができる。
授業計画	1 カリキュラムの構成概念・理念・目標・他展開過程(講義) 2 既存カリキュラムから学ぶ:グループ討論・全体討議 3 モデル教育課程の構築 ①理念・卒業時の到達目標と学習内容の抽出 ②科目設定と科目名、科目目標の設定 4 科目配置(年間計画・)と単元の展開 5 卒業時到達目標と科目の確認(科目構造の調整・理念・目標との照合) 6 まとめ(カリキュラムの発表・討論)
開講時期	平成28年3月4日(金)~6日(日)
授業形態	講義及び、グループワーク・全体討議
評価	授業に対する参加度、及び、作成したカリキュラムの完成度等を総合的に評価する。

授業科目名：助産師教育評価・演習 1単位（45時間）	
科目目標	学習者にとって適切な学習環境を理解し、助産師教育上必要な配慮と評価方法が理解できる。評価の現状を知ったうえでより良い評価方法について思考できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習者の適切な学習環境について評価できる。 2 学習者の立場からみた評価の視点と評価方法が理解できる。 3 カリキュラム評価の視点と評価方法が理解できる。 4 教育者の評価の視点と評価方法が理解できる。 5 講義に対する評価内容を適切な評価方法を用いて作成することができる。 6 評価の実際について理解し、より良い評価の視点・方法について思考できる。 7 教育機関評価の必要性和実際が理解できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育評価とは 2 教育評価の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習者の評価 2) カリキュラム評価 3) 教育者の評価 3 評価の主体と対象 4 教育評価に用いられる測定と統計 5 教育評価の妥当性と信頼性 6 教育評価の方法とその実際（演習） 助産師教育方法論で展開した講義等に対する評価の実際 7 教育機関評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分野別評価（運営）とは 2) 特定非営利活動法人日本助産評価機構（JIME）とは 3) 助産師教育評価の現状と課題
開講時期	平成28年3月22日（火）～25日（金）
授業形態	講義・演習
評価	授業に対する参加度 30% プレゼンテーション内容 50% 討議などの内容 20% を統合的に評価する。

授業科目名：助産師教育実習 1単位（45時間）	
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨地で学習者が助産過程を展開することを支援する方法を理解し、実施できる。 2 助産学のさまざまな教授方法を展開できる。 3 学習者の到達度を適切に評価する方法を理解できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨地で学習者が助産過程を展開することを支援する方法が理解できる。 2 臨地での教員の役割が理解できる。 3 臨地で学習者がおこなった助産過程を評価する方法が理解できる。 4 講義目標・内容・教材・評価方法を設定し、目標に沿った講義がおこなえる。 5 自らがおこなった講義内容を客観的に評価する方法が理解できる。 6 学習困難事例に対する対応と実習支援策を考える事ができる
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨地実習の場合 実習の準備 学習者のレディネスの把握と支援 実習調整の実際（実習先が遠隔地の場合、24時間実習・夜間実習の調整） 臨地での教育活動の実際（病院・診療所・助産所など） 臨地での教育活動と教員の役割 臨地での学習者の学びを共に振り返る（カンファレンスの効果的なもち方） 2 講義演習の場合 講義の準備（講義目標・内容・教材・評価方法の設定） 教材の作成 講義指導案の作成 講義の展開 講義の評価 3 共通：学習困難事例への対応
開講時期	平成27年10月～平成28年2月のうち、原則として連続した5日間
授業形態	実習
評価	実習先機関校による実習目標の成否（可／不可）50%と、センター長によるレポート評価50%による。